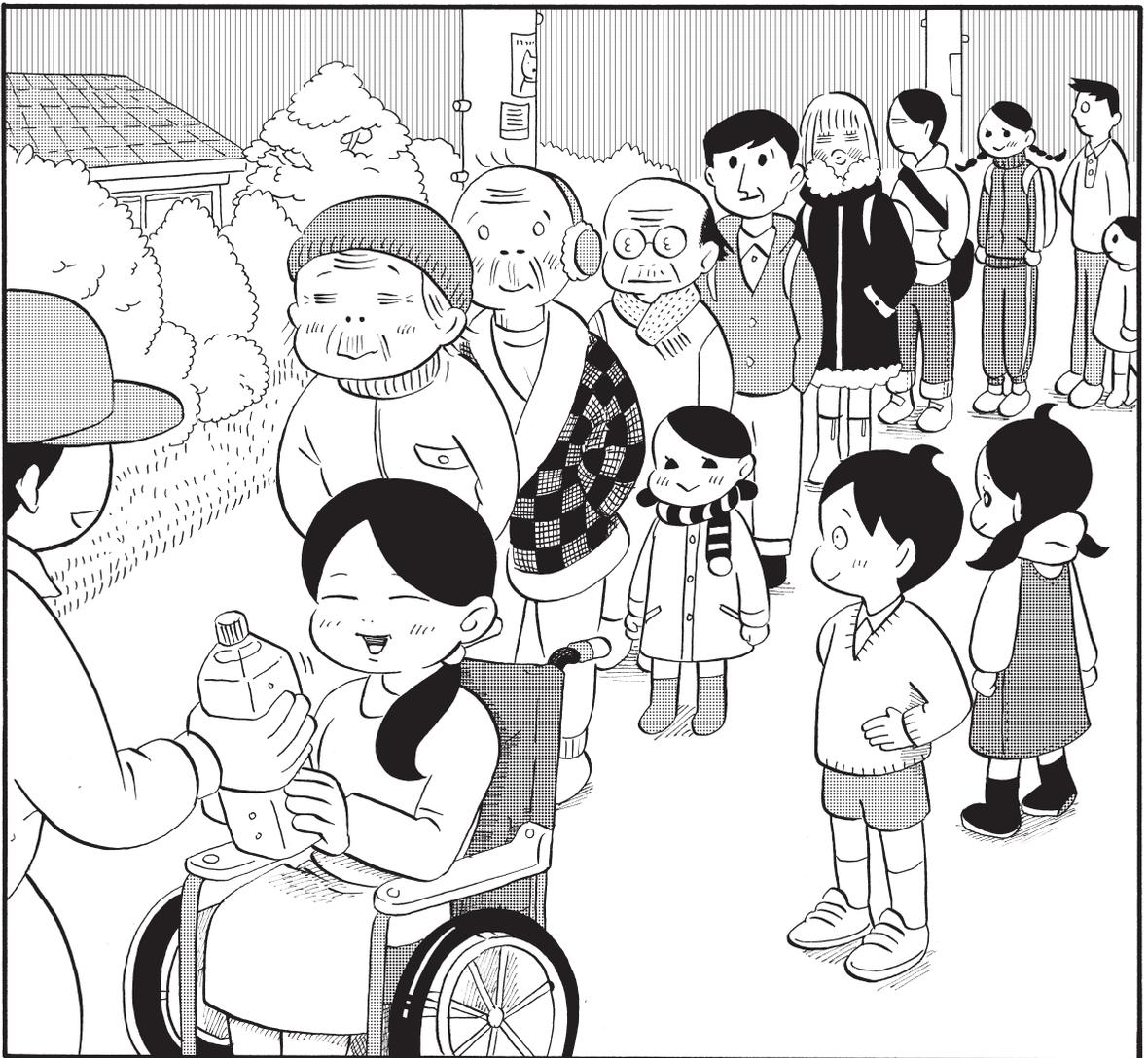


ひなんじょ ころが
[避難所で心掛けること]

ゆず あ き も
譲り合いの気持ちをもつ

ぶっし じぶん と い むずか ひと はいりよ
▶ 物資を自分で取りに行くことが難しい人に配慮する



譲り合いの気持ちをもつ

■ 状況シートの説明



▶ 場面ごとの説明

- ① みなとくんたちがいた避難所では、みんなおなかですいていました。着替える服もありませんでした。ようやく、飲み物、食べ物、服などの支援物資が届くと、大騒動になりました。「あなたちょっと取りすぎよ」「うるさいな、早くそこをどいてよ」「おれのだ。勝手に取るな。われさきに物を取ろうと、あちこちでケンカが起きました。
- ② 一方で、その様子を遠くから見ている人がいました。車いすの女性は「私も欲しいのに…」、おばあさんは「困ったねえ」と言いました。みなとくんは何と言っていいのかわからず、「…」。
- ③ 次の瞬間、みなとくんは勇気を出して言いました。「○○○○○」

▶ セリフの例 (行動)

「ケンカはやめて」
 「順番に並ぼうよ」
 「おばあちゃんにも分けてあげて」

▶ 発問例

- ・物の取り合いをしている状況を見て、どう思いますか？
- ・取り合いになったら、どうなりますか？
- ・取り合いにならないために、どうすればいいですか？

■ 教訓シートの説明



▶ 物資を自分で取りに行くことが難しい人（お年寄り、体の不自由な人、赤ちゃんや小さい子どもがいる人）に配慮する

- ・こんな状況を想像してみてください。被災した日、その次の日の2日間。食べ物がなく、家族で1枚のチョコレートとキャンディー1袋を分けて食べただけ。避難所にいる他の人も、おなかかぺこぺこです。ようやくおにぎりが届けられました。
 - » 誰もがいち早くおにぎりを食べたいと、おにぎりに殺到したらどうなりますか。
 - » 走るのが早い人、力の強い人が、1人で10個もおにぎりを取ってしまったら。
 - » 足が不自由でおにぎりを取りに行けない人、耳が不自由でおにぎりが来たことがわからない人に、おにぎりが行き渡らなかつたら。
 - » みんなで押し合いをしているうちに、おにぎりが載ったテーブルが倒れて、おにぎりが地面に落ち、誰も食べられなくなってしまったら。
- ・災害時はみんながたいへんな時です。人を思いやり、譲り合い、分け合うという気持ちをもつことが大切です。
- ・「順番に並ぶ」「1人に1個ずつ」など、話し合ってルールをつくり、みんなで守り、みんなで困難な時を乗り越えましょう。

■ 東日本大震災の教訓

緊急時にもかかわらず、きちんと順番を守って並ぶ人びとの姿が世界中から賞賛されました。どんな時でも、他の人のことを考え、譲り合いの気持ちを忘れないようにしましょう。